

オスプレイ福生にも飛来？いのちの軽視で平和は来ない

米海兵隊ヘリ部隊の世代交代で、MV 22 オスプレイが普天間飛行場に配備された。飛行機のように飛び、ヘリコプターのように離着陸できるオスプレイは、敵のレーダー探知を避けるため低高度で戦域に侵入し、兵士や軍備品を輸送する。防衛省は、今まで使っていた機種より、速度2倍、搭載能力3倍、行動半径3倍となり、「これにより在日米軍全体の抑止力が強化され、この地域の平和と安定に大きく寄与する」というが…。

防衛省関東防衛局の担当課長が、9月20日、福生市に来庁し、オスプレイについて説明したことが、福生市議会横田基地対策特別委員会で報告された。

オスプレイの安全性について、「海兵隊航空機の平均を上回る安全記録だ」と防衛省は説明するが、オスプレイより危ない航空機が海兵隊にはあるということだ。深刻な事故だけでだした数字で、それ以外の事故をいれると事故率は高いという指摘もある。

機体が不安定になるのは、翼がヘリモードと固定翼モードと転換するときだ。普天間では、日米が安全策で合意した原則禁止の基地外でのヘリモード飛行が、連日実施されている。

低空飛行訓練ルートが沖縄から東北まで、6本あり、オスプレイも同様のルートで訓練することが予定され、不安が高まっている。最低安全高度150メートル以上で飛び、原子力エネルギー施設、史跡、人口密集地等の上空は回避する。なるべく海上を飛行などとの申し合わせもあるが、守られるのだろうか。

沖縄以外で、オスプレイが飛行訓練を行う可能性が判明したとし、福生市では9月21日に安全性の懸念が完全に払拭されるまで、横田基地における飛行訓練はもとより、一時的にせよ飛来することに反対する旨を防衛省に申し入れた。また、9月24日、横田基地周辺市町横田基地対策連絡会でも同様の申し入れをした。しかし、森本敏防衛相は、11月中に本土の施設で定期的に訓練を行うとの通知を米から受けたことを明らかにした。(11/2)

福生にも来そうだと慌てて反対では、長年基地を背負ってきた沖縄の人たちはなんと思っただろう。沖縄出身者から、沖縄は見捨てられたと感じていると聞いた。

「いのち」が軽視されていないか。米は、8千万ドルともいわれるオスプレイを、同盟国に販売する思惑もあるが、いのちを粗末にして、軍備増強をエスカレートさせた先に平和と安定があるとは思えない。